

## 医師会長退任の挨拶

前沖縄県医師会 会長  
 (社会医療法人かりゆし会 理事長) 安里 哲好



2024年6月20日228回定例代議員会にて、沖縄県医師会会長を退任しましたのでご挨拶を申し上げます。2000年12月に金城進元中部地区医師会長の推薦で県医師会理事に就任し、23年余の間、県医師会活動に携わりました。長きに渡り、ご指導・ご支援下さいました歴代の会長・理事、会員の皆様、そして事務局の方々に心より感謝申し上げます。

理事の頃、全国勤務医部会が沖縄で有り、嘉手苅勤先生が部会長を務められ、勤務医の現状と要望そして近未来への展望に関して「沖縄宣言」を発信したのが記憶に有ります。

新医師臨床研修制度(2004年)が導入され、3つの研修群の初期研修プログラム検討委員会も進め、7~8割程度において共通したプログラムを作成しました。そして、2年間のプログラムの中で診療所等での地域医療研修が必須となり、地域医療現場で充実した指導ができるよう、「指導医のためのワークショップ」、「指導医のためのステップアップ講習会」を開きました。それらの経験と現状を、日医のシンポジウムで発表し好評を得たのが記憶に有ります。また、幾多の課題を乗り越えて、仲井眞弘多知事のご名代として仲里全輝副知事ご臨席のもと2009年に初期研修医139名中122名を迎え、第1回歓迎レセプションを盛大に開催したことは、全国初の試みだったと思います。

その後、常任理事の時、脳卒中の医療連携を進めました。最初は那覇市医師会と南部地区医師会を中心に(南部医療圏の一部)、紙ベースの脳卒中パスを作り連携や年間実績、各部門の発表会を展開し、その後、県全体に進めて行

き、市民公開講座を開催しました。それと並行してIT医療連携を始め、IT地域医療連携の充実した「かがわ医療ネット」、鶴岡地区医師会「Net4U」、「さどひまわりネット」等に研修・情報交換に行きました。それを進める段階で名称を診療と万国津梁を掛け合わせて「おきなわ津梁ネットワーク」と命名しました。薬の臨床治験も優秀な人材を確保し進めましたが、時代的背景や医師会自体が治験そのものを行っていない事や日医の支援も脆弱化し、治験審査委員会のみを継続していましたが、それも県医師会内では終了となりました。

副会長の時、健康長寿凋落の現状を分析し、その要因は働き盛り世代の健康状態・死亡率が大きな問題である事が分かり、その対策を立てました。地域保健、企業・産業保健、学校PTA(こどもを通じて、親の健康)戦略を検討しました。小規模事業所(50人未満)は全体の96%で、その従業員は59.4%でした。50人以上の事業所は産業医を選任し、公衆衛生担当もいます。50人未満事業所は産業医おらず、検診が義務付けられているもその結果の届出は義務付けられていません。そこに如何に介入していくか大きな課題でした。

2016年6月に会長に就任し、「県民と共に歩む医師会」、「地域医療の更なる充実」、「魅力ある医師会づくり」の3本柱を大きく掲げて推進してきました。「働き盛り世代の健康づくり・死亡率改善」を大きな課題として、より具体的な戦略として、5者協定を開始し健康経営を推進・支援し、産業医部会設置・強化し産業保健活動を進めました。また、小中学生を対象にこ

ども次世代の健康づくり副読本3冊（食育、生活習慣、こころの健康）を作成し（白井和美理事を中心に、県保健医療部連携で）、県内外で好評を得ています。

4期8年間県医師会長を務めました。後半の2期3年半近くは新型コロナウイルス感染症対策に終始しました。コロナ対策本部会を49回開き、15回以上の記者会見をしました。沖縄県のコロナ感染者（2023年5月累計）は58万3,707人で致死率は0.17%（世界0.9%、全国0.22%）と低い値でした。会員、県市町村行政、医療・介護従事者や県民の協力のお陰で、どうか無事乗り越える事ができました。改めて、心より感謝申し上げます。県医師会は「新型コロナウイルス感染症に関する医師会の取り組み：対応記録集」を発刊しました（2024年3月）。

一方、理事会運営においては、女性理事の日医代議員（九州で2名）の登用、女性医師部会からの理事増と登用、琉大病院病院長の常任理事席を常設、また、15名の中で2番目に若い理事を副会長に推薦し選任されました。加えて、8名の理事は日医の各種委員会で中心的役割を担い、積極的に発言・活動し、中央で評価されています。理事会も活発な発言・意見交換の中で進める事ができ、会議終了時には理事者がハイになり帰宅する状況を見ると胸に思い上がるものが有りました。引き続き、世代交代に加え、活気ある理事会運営が推進される様期待します。

基幹病院設置との関わりは、那覇市立病院建設委員会で、新設病院はもっと広く（1.5倍以上）を強く提案しました。

北部医療センターに関しては、翁長知事に陳情しましたが実現しませんでした。高良文雄本部町長や宮里達也北部地区医師会副会長（県医師会副会長）等の市民運動が功を奏し、玉城デニー知事は推進に署名をし、実現する運びになりました。また、2028年に向けての北部医療センター建設に際しては物価高騰の折、自見はな子沖縄担当大臣等に陳情し、約100億円を支援して頂くことになりましたが、更なる物価

高騰の影響が生じうる可能性が有ります。

琉大病院移転は村山貞之病院長（2011年）前後の頃から有り、建設費用は約300億円前後+100億円（病院負担）の状況が有りました。2015年3月に返還された「西普天間住宅地」に「国際医療拠点」形成を目指す事が計画（琉大医学部・附属病院も参画）され、仲井眞弘多元知事の陳情もあり、2015年7月に閣議決定されました。2024年末移転、2025年開院に際し、建設費用が110億円高騰し、県選出国會議員に陳情したり、武見敬三厚労大臣、自見はな子沖縄担当大臣、茂木敏充自民党幹事長、岸田文雄総理大臣（松川正則宜野湾市長より）に要請し、実現しました。

精和病院統合に関しましては、玉城知事に要望書を出し、4者の代表が新たに統合検討委員会に加わり、県行政、病院事業局、病院現場、精神科関係医療機関、県医師会との意見交換を行い、素晴らしい統合計画案が出来ました。

歴史的にも沖縄の医療、離島医療支援の中心的役割や若い医師の育成を担ってきた県立中部病院を、知事、病院事業局、現場の院長等とスクラムを組んで、新執行部は先頭に立って推進・支援して頂きたいと切望します。

九州医師会連合会会長（2021年7月～2022年6月）を担い、九州医師連合会・医学会総会を2021年11月に開催しました。2022年6月に日医医師会長選挙が有り、松本吉郎先生を会長候補にと、私は九州全体をまとめ、全国でいち早く推薦を表明しました。また、主な都道府県の会長先生方のお考えを金井忠男埼玉県会長（松本日医会長候補者選对本部長）に情報提供をし、松本会長候補の当選が実現しました。

医政活動に関しましては、県医師会理事に就任した折、県医師連盟常任執行員も（無条件で）併任でした。政治との関わり（医政活動）に関して桑江朝彦元中部地区医師会長に相談しました。桑江先生が仰るには、医療現場での諸問題を吸い上げて、医政政策を提案し、それを実現するのが医政活動です。政権政党の自民党を支援しますと述べていました。私は理解した様な、

退任の挨拶

十分には理解してない様な感じでした。中部地区医師会長就任（2008年～2012年）の時、中部地区の推薦県議会立候補者全員と意見交換をし、協定書、推薦状、ため書等物心両面からの支援を行いました。お一人30分以上でしたので、2～3日掛かった様に記憶しています。とても勉強になり、政治家との距離もグッと縮まりましたし、一生懸命応援しました。それから年月が過ぎ、県医師連盟委員長に就任し、市長選挙、知事選挙、国政選挙等に関わる様になりました。

自見はな子沖縄担当大臣は横倉義武名誉会長の推薦で、日医の組織内全国参議院候補に成り当選し、1期目で厚労大臣政務官、内閣府特命担当大臣政務官に就任され、2期目の数ヶ月後に沖縄担当大臣に就任されました。恐らく、厚労大臣になられる可能性も有りますし、ひょっ

としたら、名前の通り、自民党を取り仕切るはな子先生になられるかも知れません。多くの方々の財政的面も含めご支援をよろしくお願い致します。

新しい風が吹き、世代交代の到来が望まれ、それが実現しました。沖縄県においては地理的背景も含め、保健・医療・介護領域に置いてまだまだ多くの課題が山積して居ます。田名毅新会長を中心に新執行部がスクラムを組んで県民の「健康と生命」を守るため、会員のために邁進して頂きたくよう期待申し上げます。

最後に、東アジアの平和を強く希求し、台湾海峡の安寧を祈念します。沖縄は数百年・数千年来澄み切った青い空と七色に変化する海は永久に美しくあって欲しいし、くわえて「平和の島」と「長寿の島」を切望いたします。

